IKUSEI

# いくせい

2010 48

社団法人 競走馬育成協会

# CONTENTS

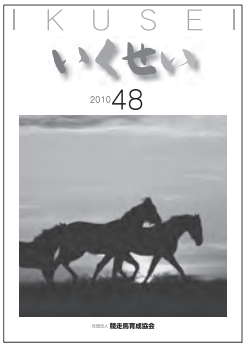
■巻頭言
○今後の生産育成の方向性について
山野辺　啓（日本中央競馬会　馬事部生産育成対策室　室長）…… ❶

■特　集
○50周年記念式典&50年の歩み …… ❷
○「牧場で働こうフェア」の開催 …… ❽

■行　事
○平成22年度　通常総会開催…… ❿
○平成22年度　経営高度化指導研修事業の取り組み …… ❿
○平成22年度　育成等に関する懇談会 …… ❿

■事　業
○平成22年度　育成技術講習会 …… ⓬
○平成22年度　海外派遣研修事業 …… ⓭
○育成技術表彰事業 …… ⓮

○地方競馬の馬主になりたい …… ⓰




題字　会長　小沢一郎
表紙写真　内藤律子

巻頭言

# 今後の生産育成の方向性について

日本中央競馬会　馬事部生産育成対策室　室長
山野辺　啓

2010年２月に今後の生産育成の指針となる「軽種馬生産育成のあり方に関する検討会報告書」が策定されました。近年、国際的にはパートⅠ国への昇格や海外での日本産馬の活躍、国内的には内国産馬の資質向上、中央競馬の売上げ減少および地方競馬の縮小等、わが国の競馬や生産育成を取り巻く環境や状況は大きく変化しています。報告書では、技術力の向上と経営の安定化を図りつつ、国際競争力をもつ資質の高い馬づくりを達成するために、中長期的な生産育成の方向性および以下の３本のビジョンを提示しています。

(1)　わが国の気候・風土に合致した高度な生産育成技術と優秀な人材により、国際競争力をもつ資質の高い馬づくりを目指す。

(2)　購買者ニーズに合致した多様な市場を開催することにより、国内外の顧客を引きつけ、市場取引による流通促進を目指す。

(3)　海外を含めた農外資本の導入、技術力と経営能力に優れた牧場を核とする連携により、経営の安定化を目指す。

これからの時代は、「施設のようなハードものから、技術や人材といったソフトへ」が重要なキーワードではないかと考えています（全文はJBBAニュースの４月号に掲載していますので、ご覧いただきたいと思います）。

それでは、このビジョンに則り、取組んでいる２つの施策を紹介したいと思います。

一つ目は「生産育成牧場就業者参入促進」です。2005年頃から、北海道の生産育成牧場のみならず、栗東・美浦TC周辺の育成専門牧場、JBBAおよびBTCの若手人材養成研修など、軽種馬産業全体に、若者の新規参入が減少を続け、「次世代の担い手不足」への危機感が強まってきました。「強い馬づくり」には優秀な人材が必要不可欠であることから、 2009年８月に（社）競走馬育成協会を事務局に、（社）日本軽種馬協会、（社）日本競走馬協会、（財）軽種馬育成調教センター、JRAの５団体で牧場就業促進事務局を立ち上げました。そして、 2010年５月には競走馬のライフステージや生産育成牧場の業務紹介および求職情報にアクセスできる「牧場就業応援サイトBOKUJOB.com」を開設しました。また、７月28日には東京競馬場で「牧場で働こうフェア」を開催し、当日ブースを開設した16牧場の担当者が、約600名の大学卒業予定者を中心とした参加者に就職説明会を実施しました。今回が初めてであり、改善していく点はありますが、「強い馬づくりは、まず人づくり」を基本理念に、今後参加牧場の輪が一層広がっていくことを期待しています。

二つ目は「海外流通促進」です。新規競走馬登録数は、1997年の中央競馬3,839頭、地方競馬4,415頭の計8,254頭から、2009年の中央競馬4,573頭、地方競馬2,309頭の計6,882頭と1,372頭減少しています。生産頭数は、1997年の8,668頭から2009年には7,454頭と1,214頭減少しています。このように特に地方競馬の衰退による国内需要が減少している中、生産規模を確保するためには、新たな需要を開拓していく必要があるのではないでしょうか。そこで、海外流通促進を支援する目的で、 2010年に３つの会議が開催されました。「海外流通促進委員会」では、賞金や競走出走条件面等から、当面のメインターゲットをシンガポールとして、在籍馬や馬主、調教師の情報を分析し、販路拡大に向けた方向性を打ち出しています。「国際水準のセリ市場のあり方検討会」では、購買者登録方法等、海外を含めた購売者ニーズに合致したセリ市場の運営方法を提案しています。また、「海外流通促進連絡協議会」では、将来的に有望なマーケットと考えられる中国への販路拡大に向けて、競馬サークル全体での情報の共有化とともに、検疫条件や施設および輸出方法等の具体的解決策を推進しています。詳細はJBBAニュース等の様々な機会を通じてお知らせすることになっています。

育成協会の会員の皆さまには、海外研修経験者等、海外の購買者に対応できる人材が豊富で、購買後の馬の預託ができるという特色を生かして、海外流通促進の一翼を担っていただければと考えています。

特集１

# 50周年記念式典＆50年の歩み

来賓の方々との記念撮影

## １．50周年記念式典

社団法人　競走馬育成協会創立50周年記念式典は、平成22年２月22日午後３時より東京都渋谷区のアイビーホール青学会館４階クリノンの間において、多数の来賓の出席を得て開催されました。

小沢一郎会長から式辞があり、農林水産大臣赤松広隆氏と日本中央競馬会理事長土川健之氏よりご祝辞を頂きました。

次いで赤松大臣より農林水産大臣表彰があり小沢一郎会長と佐藤傳二氏に感謝状が授与されました。

小沢一郎会長式辞

小沢一郎会長式辞

赤松広隆農林水産大臣祝辞

土川健之 JRA 理事長祝辞

農林水産大臣感謝状授与・小沢会長

農林水産大臣感謝状授与・佐藤傳二元理事

育成協会会長表彰・佐藤傳二元理事

育成協会会長表彰・小沢一郎理事

表彰を受けた競走馬育成協会役員の方々の履歴
小沢一郎会長（昭和62年から現在まで）
佐藤傳二氏（昭和50年から平成21年まで）

なお、以下の方々は当日欠席されましたが後日感謝状をお渡ししました。
佐野榮治氏（昭和54年から平成17年まで）
桜井美弥志氏（昭和58年から平成19年まで）
廣松義光氏（昭和50年から平成９年まで）
佐々木多四郎氏（昭和54年から平成11年まで）

次いで当協会の功績者・永年勤続者表彰があり小沢会長、吉田副会長より賞状が佐藤傳二氏、小沢会長にそれぞれ授与されました。

功績者（協会役員として20年以上または30年以上在籍）の方々
佐藤傳二氏（30年以上の在籍）
小沢一郎氏（20年以上の在籍）

また、永年勤続者（協会職員・嘱託として20年以上勤務し、協会事業遂行上功績があると認められる者。その他会長が特に認める者）として森凱子氏が表彰されました。

## ２．祝宴

式典に続いて祝宴が同会館３階ナルドの間で行われました。

まずは吉田武徳副会長より開宴挨拶が行なわれ、続いて地方競馬全国協会仲田和雄理事長よりご祝辞と乾杯の御発声を頂きました。

祝宴のあと中内田理事より万歳三唱があり、閉会となりました。

仲田和雄地方競馬全国協会理事長
祝辞・乾杯

祝賀会風景

競走馬育成協会中内田克二理事
万歳三唱

## 3．50年の歩み

昭和32年（1957年）７月「軽種馬の育成についての協議会」、９月「競走馬育成協会（仮称）の設立についての協議会」
同　33年（1958年）７月「団体の性格についての問い合わせ」、12月「（仮称）競走馬育成協会創立總会」、初代会長 大石武一氏選任
同　34年（1959年）２月「設立申請」、11月７日「農林大臣による設立許可」（創立記念日）、アラブ系馬の主要育成地 岩手、宮城、福島、福岡、佐賀

| 年度 | | 競走馬育成協会の主なできごと | アラブ系馬3歳市場 | | 育成馬展示会 | | 講習会 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 回数 | 販売頭数 | ヶ所 | 出品頭数 | | |
| 昭和34年 | 西暦1959 | 協会の体制整備<br>主要育成地でのアラブ系馬３歳市場の開設 | 8 | 178 | 1 | 61 | 5回 | |
| 35年 | 1960 | | 9 | 169 | 2 | 109 | 6回 | |
| 36年 | 1961 | | 9 | 194 | 2 | 65 | 5回 | |
| 37年 | 1962 | | 9 | 195 | | | | |
| 38年 | 1963 | | 9 | 158 | 2 | 61 | 4回 | |
| 39年 | 1964 | | 9 | 153 | 2 | 60 | | |
| 40年 | 1965 | | 7 | 157 | 7 | 323 | 7回（以下、展示会場において） | |
| 41年 | 1966 | | 7 | 130 | 7 | 267 | 7回 | |
| 42年 | 1967 | | 7 | 153 | 7 | 363 | 7回 | |
| 43年 | 1968 | アラブ系馬３歳市場の運営について全国反省会 | 7 | 115 | 7 | 256 | 7回 | |
| 44年 | 1969 | | 7 | 115 | 7 | 280 | 7回 | |
| 45年 | 1970 | | 7 | 110 | 7 | 279 | 7回 | |
| 46年 | 1971 | | 7 | 100 | 7 | 145 | 7回 | |
| 47年 | 1972 | | 7 | 91 | 10 | 116 | 10回 | |
| 48年 | 1973 | | 5 | 65 | 9 | 104 | 9回 | |
| 49年 | 1974 | | 5 | 50 | 8 | 84 | 8回 | |
| 50年 | 1975 | | 5 | 57 | 8 | 97 | 8回 | |
| 51年 | 1976 | | 5 | 86 | | | | |
| 52年 | 1977 | | 5 | 89 | 6 | 118 | 4回 | |
| 53年 | 1978 | | 5 | 79 | | | 育成技術研修会<br>1回（水沢市場） | |
| 54年 | 1979 | | 4 | 75 | | | 1回（水沢競馬場） | |
| 55年 | 1980 | | 4 | 68 | 10 | 85 | | |
| 56年 | 1981 | | 4 | 64 | 10 | 108 | 1回（水沢市場） | |
| 57年 | 1982 | 青森県支部発足 | 4 | 45 | 8 | 69 | 1回（宇都宮育成牧場） | |
| 58年 | 1983 | 福岡県支部・佐賀県支部合併（福岡県支部）<br>第２代会長 岩動道行氏選任 | 5 | 48 | 10 | 79 | 1回（水沢市） | |
| 59年 | 1984 | | 5 | 41 | 10 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 育成実地指導研修会<br>1回（東北支部会員） |
| 60年 | 1985 | | 5 | 31 | 7 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 1回（東北支部会員） |
| 61年 | 1986 | 北海道支部発足（サラブレッド育成者の加入） | 5 | 33 | 7 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 1回（東北支部会員） |
| 62年 | 1987 | 昭和62年度運動方針の策定<br>機関誌「いくせい」発刊<br>第３代会長 小沢一郎氏選任 | 4 | 31 | 6 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 1回（JRA 日高育成牧場）<br>巡回育成実地研修（東北支部） |
| 63年 | 1988 | 「30年の歩み」発刊 | 5 | 34 | 7 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 1回（JRA 日高育成牧場）<br>巡回育成実地研修（東北支部） |
| 平成元年 | 1989 | | 5 | 32 | 7 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 1回（JRA 日高育成牧場）<br>巡回育成実地研修（東北支部） |

の５支部で発足。

| 主な事業 | | 調査事業 | | 競馬を取り巻く情勢等 |
|---|---|---|---|---|
| | 表彰事業 | | | |
| | | | | JRA アラブ系抽せん馬配布頭数195頭 |
| | | | | JRA アラブ系抽せん馬配布頭数185頭 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | 需要者調査　13都府県競馬団体 | | JRA アラブ系抽せん馬配布20頭減（164頭） |
| | | 12都府県競馬団体 | | JRA アラブ系抽せん馬配布20頭減（142頭） |
| | | 11都府県競馬団体 | | JRA アラブ系抽せん馬配布頭数140頭 |
| 共同育成所（岩手：NAR 補助） | | 13都府県競馬団体 | | 活馬の自由化、馬インフルエンザの大流行 |
| | | 10都府県競馬団体 | | |
| 共同育成所（福島：NAR 補助） | | ９都府県競馬団体 | | オイルショック |
| 共同育成所（佐賀） | | ７都府県競馬団体 | | |
| | | ７都府県競馬団体 | | 競馬懇談会報告書 |
| 共同育成所（宮城） | | ６都府県競馬団体 | | |
| | | 10都県競馬団体 | | JRA 売上1兆円を超える |
| | | 14県競馬団体 | アラ系生産馬の主要市場実態調査<br>常葉、保原、日高、胆振 | |
| | | ４県競馬団体 | 川渡、八戸、日高、胆振 | |
| | | ５県競馬団体 | 川渡、日高 | |
| | | ３県競馬団体 | | 第1回ジャパンカップ |
| | | ４県競馬団体 | 常葉、鳴子、静内、門別、鵡川 | |
| | | | 常葉、鳴子、静内、門別 | |
| | | | 常葉、鳴子、静内、門別 | |
| | | | 常葉、鳴子、静内 | |
| | 優秀育成者表彰（アラ系2名） | | 常葉、鳴子、八戸、静内 | |
| 共同育成モデル施設事業発足 | 優秀育成者表彰（アラ系2名） | | 大隈、常葉、鳴子、八戸、静内 | |
| 共同育成モデル施設事業 | 優秀育成者表彰<br>（アラ系2名、サラ系2名） | | 大隈、常葉、鳴子、八戸、静内 | |
| 共同育成モデル施設事業 | 優秀育成者表彰<br>（アラ系2名、サラ系2名） | | | 第100回天皇賞施行 |

| 年度 | | 競走馬育成協会の主なできごと | アラブ系馬3歳市場 | | 育成馬展示会 | | 講習会 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 回数 | 販売頭数 | ヶ所 | 出品頭数 | | | |
| 2年 | 1990 | | 5 | 39 | 7 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 1回<br>（JRA 日高育成牧場）<br>巡回育成実地研修<br>（東北支部） | 共同育成モデル施設事業 |
| 3年 | 1991 | | 5 | 32 | 7 | | 1回（宇都宮育成牧場） | 1回<br>（JRA 日高育成牧場）<br>巡回育成実地研修<br>（東北支部） | |
| 4年 | 1992 | 馬事公苑から JRA 新橋分館に移転 | 5 | 39 | 6 | | | 2回<br>（JRA 日高育成牧場）<br>巡回育成実地研修<br>（東北支部） | |
| 5年 | 1993 | | 5 | 31 | 4県 | | | 1回<br>（JRA 日高育成牧場） | |
| 6年 | 1994 | 南九州支部発足 | 5 | 31 | 4県 | | | | 特別基金造成（1億円） |
| 7年 | 1995 | | 3 | 23 | | | | | アラブ系3歳市場対策事業<br>育成施設助成事業 |
| 8年 | 1996 | 関東支部・関西支部発足 | 3 | 33 | | | | | アラブ系3歳市場対策事業<br>育成施設助成事業 |
| 9年 | 1997 | 育成技術研修関係小委員会 | 2<br>（7～9年は、統合市場） | 17 | | | | | アラブ系3歳市場対策事業<br>軽種馬生産育成緊急対策基金造成<br>（9年～13年：計7億円） |
| 10年 | 1998 | JRA 新橋分館から JRA 本部ビルに移転 | | | | | 育成技術講習会<br>3回 | | 優良育成施設等整備事業<br>育成技術者海外派遣研修事業 |
| 11年 | 1999 | 創立 40 周年記念式典<br>「育成協会のなすべき方策」策定 | | | | | 7回 | | 優良育成施設等整備事業<br>育成技術者海外派遣研修事業 |
| 12年 | 2000 | 九州支部発足（福岡県支部解散･統合） | | | | | 4回 | | 優良育成施設等整備事業<br>育成技術者海外派遣研修事業 |
| 13年 | 2001 | 東北支部発足 | | | | | 5回 | | 優良育成施設等整備事業<br>育成技術者海外派遣研修事業 |
| 14年 | 2002 | | | | | | 5回 | | 優良育成施設等整備事業（未了分）<br>育成技術者海外派遣研修事業 |
| 15年 | 2003 | 「地方競馬場における育成調教問題」 | | | | | 5回 | | 育成技術者海外派遣研修事業 |
| 16年 | 2004 | 「地方競馬場における育成調教問題」 | | | | | 3回 | | 育成技術者海外派遣研修事業 |
| 17年 | 2005 | 「書面による預託契約の推進」 | | | | | 4回 | | 地方競馬全国協会補助事業<br>生産育成技術者海外派遣研修事業 |
| 18年 | 2006 | | | | | | 3回 | | 生産育成技術者海外派遣研修事業 |
| 19年 | 2007 | 「人材養成・確保に関する対策」の JRA との協議 | | | | | 4回 | | 生産育成技術者海外派遣研修事業 |
| 20年 | 2008 | | | | | | 4回 | | 生産育成技術者海外派遣研修事業 |
| 21年 | 2009 | 創立 50 周年 | | | | | 4回 | | 生産育成技術者海外派遣研修事業 |

注）平成 22 年 2 月「創立 50 周年記念式典」、12 月「50 年史」発刊

| 主な事業 | | 調査事業 | 競馬を取り巻く情勢等 |
|---|---|---|---|
| | 表彰事業 | | |
| | 優秀育成者表彰規程制定<br>（表彰：アラ系２名、サラ系２名） | | バブル景気崩壊 |
| | 優秀育成者表彰<br>（アラ系２名、サラ系２名） | 会員牧場実態調査 | JRA「アラブ系競走に関する懇談会」<br>（平成３年 12 月～平成４年３月） |
| 馴致用練習発馬機利用実態調査事業<br>（平成４年～平成８年） | 優秀育成者表彰<br>（アラ系２名、サラ系２名） | 会員牧場実態調査 | |
| 軽種馬生産育成強化資金（利子補給事業）<br>馴致用練習発馬機利用実態調査事業 | 優秀育成者表彰<br>（アラ系２名、サラ系２名） | 会員牧場実態調査 | |
| 馴致用練習発馬機利用実態調査事業 | 優秀育成者表彰<br>（アラ系２名、サラ系２名） | 会員牧場実態調査 | JRA「アラブ系３歳馬購買終了」 |
| 馴致用練習発馬機利用実態調査事業 | 優秀育成者表彰<br>（アラ系２名、サラ系２名） | 会員牧場実態調査 | JRA「アラブ競走廃止」 |
| 馴致用練習発馬機利用実態調査事業 | 一般表彰 12 名、特別表彰４名 | 会員牧場実態調査 | |
| | 一般表彰８名、特別表彰延べ 10 名 | 会員牧場実態調査 | ２歳トレーニング市場の本格的開始<br>JRA 売得金４兆円を超える |
| | 延べ９名 | JRA 委託調査<br>育成経営の実態及び改善に関する基礎調査事業 | |
| | 延べ 23 名<br>育成技術表彰規程制定 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査事業 | |
| | 育成技術表彰規程適用<br>延べ 39 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査事業 | |
| | 延べ 147 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査事業 | 競走馬の年齢表記を国際基準の満年令に改める |
| 畜産環境整備リース事業取組み開始 | 延べ 163 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査 | |
| 競馬関連機材等有効活用事業開始 | 延べ 125 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査 | |
| | 延べ 195 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査 | |
| | 延べ 185 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査 | |
| | 延べ 201 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査 | |
| | 延べ 213 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査、全国育成者概況調査 | パートⅠ国昇格 |
| | 延べ 218 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査、全国育成者概況調査 | |
| | 延べ 225 件 | 育成経営の実態及び改善に関する基礎調査<br>競走馬資源有効活用調査、全国育成者概況調査 | |

特集２

# 「牧場で働こうフェア」の開催

## （これまでの経緯）

平成18年から、当協会理事会で「競馬産業に参入する若者の不足」について、議論がなされ、平成19年の「JRAとの育成等に関する懇談会」で業界一体となって取り組むように要望しました。そして平成20年度からJRAとともに実態調査を進め、その調査結果をもとに「競走馬の生産育成牧場への若手就業者参入促進プラン」を作成しました。（詳細は昨年の「いくせい47号」を参照）

平成21年８月に当協会を事務局に社団法人日本軽種馬協会、社団法人日本競走馬協会、財団法人軽種馬育成調教センター、JRA日本中央競馬会の５団体の若手職員によって「多くの若者に競走馬の生産・育成の現場をつぶさに紹介することにより、フレッシュでやる気に満ちた若者の就業を促進し、世界の主要レースで活躍できる馬づくりを目指す」ことを目的に牧場就業促進事務局が発足しました。

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業　軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）の補助を受け、生産育成牧場就業者参入促進事業として当フェアを開催しました。

## （「BOKUJOB　牧場で働こうフェア　～馬と生きる。自分を生きる。～」）

「強い馬づくりは、優秀な人づくりから！」を基本理念に、牧場就業促進事務局は、軽種馬産業として初めての合同就職説明会である「牧場で働こうフェア」を、平成22年7月28日、午前11時より東京都府中市のJRA東京競馬場を会場に開催し、約600名の来場がありました。

## １．講演

日本を代表する生産・育成牧場の方々として、社台ファーム代表 吉田照哉氏、ビッグレッドファーム 蛯名聡氏、下河辺牧場 下河辺行雄氏、ハッピーネモファーム 根本明彦氏をお招きし、競走馬の生産育成牧場の現状や魅力、さらには、そこで働く人々の生活などについて、エピソードを交えながら具体的にお話いただきました。

また、日本軽種馬協会と軽種馬育成調教センターが実施している競走馬の生産・育成・調教技術の研修案内、日本装蹄師会の造鉄実演も併せて行いました。

講演会の様子

## ２．コミュニケーションエリア

牧場で働こうフェアのメインとなるもので16牧場の担当者が、通常の企業説明会と同様、牧場ごとに就職相談ブースを設け、面談を行ないました。牧場の業務内容、雇用条件、福利厚生、牧場の実績、余暇の過ごし方など、双方のコミュニケーションを図り、各牧場独自の馬づくりに関心を持ってもらうなどのリクルート活動を行いました。求職希望者が疑問や不安に思っていることを直接質問できるコーナーで、関心のある牧場の担当者と直接話ができました。参加牧場はビクトリーホースランチ、ミホ分場、下河辺牧場、ノーザンファーム、社台ファーム及び社台コーポレーション、追分ファーム、宇治田原優駿ステーブル、千代田牧場、天栄ホースパーク、ハッピーネモファーム、坂東牧場、ビッグレッド

ファーム、白井牧場、シンボリ牧場、吉澤ステーブル、大作ステーブルの16牧場でした。

多くの求職者が集まりました

熱心に耳を傾けていました

## 3．研修相談コーナー

日本軽種馬協会、軽種馬育成調教センター、日本装蹄師会が実施している研修制度に関する相談コーナーを設けました。まずは技術を習得してから就職を目指す方々が相談を行っていました。

## 4．厩舎見学エリア

馬に関心のある方が直接馬を触り、乗馬体験や厩舎体験などをすることによって実際の馬に親しんでもらうコーナーを設けました。

多くの方が乗馬を体験しました

## 5．競馬博物館見学

競馬の歴史や競走馬の生産から育成の仕事について学芸員の案内で学ぶツアーを行いました。

## （牧場就業促進事務局からの御礼）

競馬産業として初めて行いました牧場就職フェアに、多くの若者に参加していただき、心より感謝申しあげます。これまで「強い馬づくりは、優秀な人づくりから！」を合言葉に、牧場の方々と事務局とで共同し取り組んできた成果が現れたものと思います。この就職フェアをきっかけに、ひとりでも多くの若者が、馬をつくり育てる仕事に関心をもち、職業選択肢のひとつとして検討いただければ幸いです。今後も、世界に通用する強い馬づくりの素晴らしさを、若い世代に伝えるため、更に努力したいと思います。

### 競走馬生産・育成牧場就業応援サイト BOKUJOB のご案内

フェアに先立って５月21日より求職者向けのウェブサイトをオープンしました。

競走馬 生産・育成牧場就業応援サイト
BOKUJOBで詳しくご紹介！
BOKUJOB
http://bokujob.com

内容
- 軽種馬産業とは（馬関係の仕事全般についての説明）
- 牧場で働くまでの流れ(仕事に就くまでの流れ)
- 研修について（初心者が仕事前に技術を身につけるまでの研修案内）
- 先輩紹介（牧場で働く若者のインタビュー）
- 牧場の一日（牧場の仕事を紹介）
- 求人牧場紹介・応募

となっており、今後も携帯電話からアクセスできるケイタイ用ウェブサイトの内容の充実などを図ってまいります。

特に求人牧場の紹介記事の掲載は無料ですので、ご希望の方は協会まで積極的にご応募下さい。

行事１

# 通常総会開催

平成22年度通常総会は、平成22年２月22日、アイビーホール青学会館４階クリノンの間において、多数の来賓の出席を得て開催されました。

吉田副会長から開会挨拶があり、次いで日本中央競馬会水野豊香理事からの来賓祝辞をいただきました。

議長に中内田克二氏が選任されて議事に入り、次の議案が審議・承認されました。

第１号議案　「平成21年度事業報告および平成21年度収支決算について」

第２号議案　「平成22年度事業計画及び平成22年度収支予算について」

第3号議案　「平成22年度会費等の額並びに徴収の方法について」

行事２

# 経営高度化指導研修事業の取り組み

## （平成22年度第１回臨時総会）

平成22年２月22日に開催した平成22年度通常総会では、軽種馬経営高度化指導研修事業の取組みが確定していなかったが、地方競馬全国協会の公募に応募することとされた。４月に至って公募があり、応募した結果当協会が実施することとなったので、７月１日開催の第２回理事会において臨時総会を開催し、審議することとされた。

7月28日の臨時総会では、圧倒的賛成の下、同事業の取組みが可決され、取組みに伴う事業計画の変更と予算案が承認された。

（変更後の平成22年度事業計画）

３．軽種馬経営高度化指導研修事業の実施

軽種馬の経営の安定につながる将来の基幹的技術者の確保及び高度な知識技術の修得の支援のため、引き続き、生産育成技術者海外派遣事業を実施するとともに、新たに修学奨励金交付事業、就業促進事業を行う。

（変更後の予算額：事業支出額）

| | |
|---|---|
| 生産育成技術者海外派遣事業 | 13,295千円 |
| 就業促進事業 | 40,005千円 |
| 修学奨励金交付事業 | 2,001千円 |

行事３

# 平成22年度「育成等に関する懇談会」の開催

平成12年度から「育成等に関する懇談会」が開催され、「競走馬育成に関わる諸問題」について日本中央競馬会と当協会との間で意見交換を行ってきました。

本年度の懇談会は、７月２日午前10時から、日本中央競馬会水野理事、田辺馬事部長、山野

辺生産育成対策室長ほか担当者が、競走馬育成協会から吉田、荻野副会長以下６理事ほか担当者が出席して、日本中央競馬会六本木事務所９階第1会議室で開催されました。

昨年から事業化された「馬産地再活性化緊急対策事業」の利用状況について協議され、育成施設の整備について後期育成牧場の施設整備は理解されづらい印象があること、口蹄疫による九州市場の延期補償については活用できなかったことを伝えました。

また、育成技術者の確保については、高校生や大学生だけではなく乗馬少年団など若年者層への告知や支援についての要望を行いました。

なお、当協会からの要望（別紙参照）については、次のとおり回答がありました。

1.「育成技術表彰の維持と充実」については、従来の４競走に加え、本年より京都競馬場のデイリー杯２歳ステークスと東京競馬場の京王杯２歳ステークスも表彰対象とするよう調整中で、今後も育成者の臨場実績等を勘案して検討したいとのこと。
2.「育成牧場の基盤強化対策」については、昨年に軽種馬生産育成強化資金利子補給事業の助成額及び助成率の見直しを実施したところで、これらの事業の有効活用をお願いしたい。
3.「競馬ファンへの育成情報の提供」については、一部のファンの要望はあるものの強い要望には至っていないと認識している。移動履歴の記入の徹底については防疫上からも有効であるので会員に周知をお願いしたい。移動履歴情報ネットワークの構築については予算上難しいとのことだった。

育成等に関する懇談会の様子

---

（別紙）

# 平成22年度「育成等に関する懇談会」について

平成22年7月2日
社団法人 競走馬育成協会

## 1．育成技術表彰の維持と充実

育成技術表彰事業は育成牧場の役割と育成技術水準の向上に資する事業として、会員の期待や関心のきわめて高い事業である。育成技術の向上やトレセンへの預託環境の変化等に伴い、今後も表彰対象件数の増加が予想される。昨年は、特にファンの関心が高い新馬競走において対象件数の約７割が当協会会員の育成馬であった。

また、昨年はJRAのご好意により競馬場における２歳ステークス競走の表彰が新潟２歳ステークスを新たに加え４競走で実現した。今後も対象競走の拡充とともに、これまでと同様の事業の維持と充実がされるよう特段の配慮をお願いしたい。

## 2．育成牧場の基盤強化対策

トレセンと育成牧場の連携が年々発展し、よりレベルの高い技術が求められており、これに伴う育成・調教を行う施設・機械の整備は不可欠なものとなっている。昨年来、軽種馬生産育成強化資金利子補給事業の改定、畜産近代化リース事業の軽種馬育成者への対象拡大があり感謝しているが、年々強まる調教水準高度化に対応するためには、会員の施設の一層の改善が急務なことから、更に有効な事業の設置について検討を願いたい。

### ３．競馬ファンへの育成情報の提供

育成の重要性は競馬関係者や競馬ファンに深く認識されるようになってきている。特に、民間育成牧場の役割がトレセンのそれとほぼ同様に考えられてきていることから、競馬ファンへのトレセンでの調教情報提供と同様に育成情報も積極的に提供する時期に来ていると考えられる。そのためには育成者・育成場所・育成期間を明確にするための健康手帳による移動履歴の記載の徹底を図り、育成情報をいつでも提供できる体制を構築しておくことが最善と思われる。また、中長期的には競走馬の個体識別に利用されているマイクロチップをシステム化し利用することで、リアルタイムに移動履歴や育成情報を管理することが可能であると考えられる。このような競走馬のトレーサビリティ（追跡可能性）を整備することは防疫対策上も重要であると考える。

### ４．育成技術者の確保

育成技術者の人材確保は育成業界の懸案事項となっているが、軽種馬関係５団体の連携で発足した「牧場就業促進事務局」による「競走馬の生産育成牧場への若手就業者参入促進プラン」が事業化し、４月より進行中である。

今後も支援についてJRAの協力をお願いしたい。

事業１

## 育成技術講習会

平成10年度より実施している育成技術講習会については、平成19年度から、JRA、BTC、当協会の３団体共催として実施しています。本年度は下記のとおり開催されました。各講習会とも会員はじめ生産・育成関係者及びトレセン関係者等多数の参加を得て、好評を博しました。

○東北地区
９月29日（水）　13：00～16：00
三戸郡町村会館
演題：「育成馬及び繁殖牝馬の栄養管理」
講師：JRA 競走馬総合研究所　研究役
松井　朗氏
参加者数：29名

関東地区の講習会の様子

○関東地区
９月８日（水）　17：00～20：00
JRA 美浦トレーニングセンター
演題：「競走馬の育成調教について」
講師：JRA 日高育成牧場　専門役
頃末　憲治氏
参加者数：82名

○関西地区
９月１日（水）　17：00～20：00
JRA 栗東トレーニングセンター
演題：「競走馬の育成調教について」
講師：JRA 日高育成牧場　専門役
頃末　憲治氏
参加者数：72名

○九州地区
10月14日（木）　13：00～16：00
鹿児島大学農学部
演題及び講師：
「育成馬及び繁殖牝馬の栄養管理」
JRA 競走馬総合研究所　研究役
松井　朗氏
「セリに向けた馬の手入れ」
JRA 宮崎育成牧場　業務課長
内藤　裕司氏
参加者数：49名

事業２

# 海外派遣研修事業

## （軽種馬経営高度化指導研修事業　生産育成技術者海外派遣事業）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化研修事業（人材養成支援）により補助を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修を実施しています。

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の1／2を上限に補助金を交付するもので、平成10年から16年までJRAの補助により実施していた期間を通算すると、昨年まで実に58名がこの制度を利用したことになります。

本年度は、（財）軽種馬育成調教センターから推薦のあった同センター第27期卒業生８名を５月20日から８月21日までの約３ヶ月間、アイルランド競馬学校RACE（Racing Academy & Centre of Education）に派遣しています。今後も11月に軽種馬青年部連絡協議会９名がアメリカで研修しました。

アイルランドの厩舎では様々な国の方が働いています

アイルランドの競馬の様子

今年度の派遣者及び就労牧場は次のとおりです。

（財）軽種馬育成調教センター卒業生

| | |
|---|---|
| 池田靖充氏 | 様似町軽種馬共同育成センター利用組合 |
| 井手勝司氏 | ㈲下河辺牧場 |
| 笹島智則氏 | ㈲ビッグレッドファーム |
| 佐藤駿氏 | アクティファーム |
| 南早穂氏 | 森本ステーブル |
| 森田雄樹氏 | ㈱グリーンウッドパーク |
| 横橋みなみ氏 | 畠山牧場豊畑トレーニングセンター |
| 渡部圭祐氏 | ㈲グランド牧場 |

また、平成22年９月17日の改正により補助対象者及び研修内容の追加を下線部のとおり行いましたので、ご確認下さい。

### 補助対象者

１．協会の会員とその家族、及び会員が経営する牧場の従業員が経営する牧場の従業員であって、次の要件に該当するもの

①　軽種馬生産育成に関する高度な知識・技術の修得を志向し、将来的にわが国の軽種馬育成に取り組む意欲が旺盛とみこまれる者

②　所属する協会支部長の推薦がある者

③　協会と（社）日本軽種馬協会双方の会員である場合には、原則として育成を主たる業とする会員または関係者

④　会員が経営する牧場の従業員にあっては、牧場経営者の推薦があり、同牧場で１年以上就労している者又は協会会長がこれと同等と認めた者

２．会長が指定する生産育成技術者養成機関を卒業後３ヶ月以内の者（卒業予定者も申請できるものとする。）であって、生産育成牧場への就労を予定し、又は就労しており、当該養成機関の推薦及び就労予定牧場、又は就労牧場からの申請がある者

３．会長が特に認める者

### 研修期間

３ヶ月以上１年以内とする。但し、研修の目的、研修内容により、期間の短縮を認めることがある。

### 海外研修場所

①　競馬先進国の軽種馬関連人材養成機関

②　競馬先進国の軽種馬牧場及び競馬場厩舎

③　競馬先進国のせり市場及び競馬場。並びに競走馬生産育成関連施設

事業３

# 育成技術表彰事業

## １．育成技術表彰事業について

⑴　平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。

⑵　平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われてきました（表１）。

⑵　平成20年度に実現した重賞２歳ステークス競走の施行場における育成者表彰対象は、デイリー杯２歳ステークス、京王杯２歳ステークスを加えた全６競走となりました。

⑶　なお、表彰馬は、協会ホームページ http://www.ttda.or.jp に随時更新・掲載しておりますので、本事業の概要とともに、詳細をご覧ください。

## ２．平成21年度の表彰事業について

⑴　平成21年度の表彰件数は、会員の育成技術向上の成果として225件、特に新馬競走では193件と対象件数の７割は協会会員の育成馬で、予算積算上の想定頭数を上回る事態となり、賞金の単価切り下げを余儀なくされている状況にあります。

⑵　平成21年度の表彰対象者は、表３のとおりです。

## ３．平成22年度の実施について

⑴　平成22年度については、昨年度とほぼ同様の形で実施されることが、本年２月の通常総会で決定されています（表２）。

H21.12.20（日）
朝日杯フューチュリティステークス　ローズキングダム号

H22.10.16（土）　京都競馬場　第45回デイリー杯２歳ステークス

## 表１．育成技術表彰事業の推移

| 区　　分 | 表彰対象及び拡充の経緯 | （表彰件数） |
|---|---|---|
| 平成12年度 | ２歳重賞・３歳重賞<br>障害重賞・３歳（４歳）以上重賞競走の３歳馬・ダート重賞交流競走（３・４歳限定） | 39件 |
| 平成13年度 | ２歳新馬競走（拡充） | 147件 |
| 平成14年度 | | 163件 |
| 平成15年度 | 特定の重賞競走（拡充）、表彰要件の緩和（育成期間５ヶ月以上） | 125件 |
| 平成16年度 | ３歳新馬競走（拡充） | 195件 |
| 平成17年度 | | 185件 |
| 平成18年度 | ３歳オープン競走（拡充） | 201件 |
| 平成19年度 | | 213件 |
| 平成20年度 | | 218件 |
| 平成21年度 | | 225件 |

## 表２．平成22年度の実施について

| 種　　目 | | 表彰要件 | 賞　　金 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 新馬競走 | ２歳新馬競走 | 満１歳になる年度の９月１日～12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の５月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した会員 | 原則として10万円 | ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。 |
| | ３歳新馬競走 | | | |
| ２歳重賞競走<br>グレードⅠの優勝馬<br>グレードⅡ及びⅢの優勝馬 | | | 原則として20万円<br>原則として10万円 | |
| 障害重賞競走<br>グレードⅠの優勝馬<br>グレードⅡ及びⅢの優勝馬 " | | 継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入きゅう後６週間以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した会員 | 原則として20万円<br>原則として10万円 | |
| ３歳以上の重賞競走 | | トレセン等入きゅう直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入きゅう後30日以内に優勝した馬を育成した会員 | 原則として20万円 | |
| 平地の３歳以上のオープン競走（３歳限定競走を除く。） | | | 原則として10万円 | ただし、賞金総額が予算額を上回った場合、単価切り下げを実施。 |

注１．前年度の12月31日現在、当協会の会員であること。
注２．ただし、障害重賞競走にあっては、障害調教開始日現在において、当協会の会員であること。

## 表３．平成21年度表彰対象者一覧

| 表彰会員名 | 代表者名 | 支部名 | 受賞件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 新馬競走 | 重賞競走 | | | オープン |
| | | | | GⅠ·JpnⅠ | GⅡ·JpnⅡ | GⅢ·JpnⅢ | |
| ノーザンファーム | 吉田　勝己 | 北海道 | 47 | 2 | | 1 | |
| 社台ファーム | 吉田　照哉 | 北海道 | 46 | | | 2 | 1 |
| （有）吉澤ステーブル | 吉澤　克己 | 北海道 | 12 | | | 1 | |
| （有）ビッグレッドファーム | 岡田美佐子 | 北海道 | 7 | | | | 1 |
| 白井牧場 | 白井　　岳 | 北海道 | 6 | | | | |
| （有）下河辺牧場 | 下河辺俊行 | 北海道 | 5 | | | | |
| 小国スティーブル | 小国　和紀 | 北海道 | 4 | 1 | 1 | | |
| （有）加藤ステーブル | 加藤　信之 | 北海道 | 4 | | | | |
| （有）高昭牧場 | 上山　泰憲 | 北海道 | 4 | | | | |
| （有）千代田牧場 | 飯田　正剛 | 北海道 | 4 | | | | |
| （株）西山牧場 | 西山　茂行 | 北海道 | 4 | | | | |
| （有）ファンタストクラブ | 古岡　宏仁 | 北海道 | 4 | | | 1 | |
| （有）メジロ牧場 | 北野　雄二 | 北海道 | 4 | | | | |
| （有）武田ステーブル | 武田　茂男 | 北海道 | 3 | | | | |
| （有）日進牧場 | 谷川　利昭 | 北海道 | 3 | | | | |
| （有）ノースヒルズマネジメント | 前田　幸治 | 北海道 | 3 | | 1 | | |
| （有）坂東牧場 | 坂東　正積 | 北海道 | 3 | | | 2 | |
| （有）目名共同トレーニングセンター | 岡田　隆寛 | 北海道 | 3 | | | | |
| （有）荻伏共同育成場 | 村下　正俊 | 北海道 | 2 | | | | |
| （有）グランド牧場 | 伊藤　佳幸 | 北海道 | 2 | | | | |
| （有）ケイアイファーム | 中村　祐子 | 北海道 | 2 | | | | |
| （有）コスモヴューファーム | 岡田　繁幸 | 北海道 | 2 | | | | |
| （有）ビクトリーホースランチ | 荻野　　豊 | 北海道 | 2 | | | | |
| （有）ヤマダステーブル | 山田　秀人 | 北海道 | 2 | | | | |
| テンコー・トレーニングセンター | 島川　利子 | 東　北 | 2 | | | | |
| （有）アカイステーブル | 赤井　　繁 | 北海道 | 1 | | | | |
| （有）内田ステーブル | 内田　裕也 | 北海道 | 1 | | | | |
| （有）大作ステーブル | 村田　大作 | 北海道 | 1 | | | | |
| （有）谷川牧場 | 谷川　忠子 | 北海道 | 1 | | | | |
| （有）チェスナットファーム | 広瀬　　亨 | 北海道 | 1 | | | | |
| （有）地興牧場 | 小林　政幸 | 北海道 | 1 | | | | |
| ハントバレートレーニングファーム | 吉田　久則 | 北海道 | 1 | | | | |
| （有）日高大洋牧場 | 小野田健治 | 北海道 | 1 | | | | |
| 本桐共同育成センター | 長井　伍郎 | 北海道 | 1 | | | | |
| （有）天栄ホースパーク | 半澤　信彌 | 東　北 | 1 | | | | |
| （有）下河辺トレーニングセンター | 下河辺行信 | 関　東 | 1 | | | | |
| （有）ミッドウェイファーム | 宮崎　利男 | 関　東 | 1 | | 1 | | |
| （農）串良軽種馬生産育成組合 | 釘田　義広 | 九　州 | 1 | | | | |
| （株）グリーンウッドパーク | 木村　幸雄 | 関　西 | | 3 | 3 | 3 | 2 |
| （有）宇治田原優駿ステーブル | 八木　秀之 | 関　西 | | | 1 | | 2 |
| （有）ミホ分場 | 藤沢　美咲 | 関　東 | | | | 1 | 2 |
| 計 | 41会員 | | 193 | 6 | 7 | 11 | 8 |

# 地方競馬の馬主になりたい（地方競馬全国協会から）

「地方競馬の馬主になりたい！」という方は地方競馬全国協会までご連絡ください。

**●馬主になりたい！**

・馬主には、個人馬主、法人馬主、組合馬主の３つの区分があります。
（注：個人馬主の年間所得は500万円以上、組合馬主の組合員には年間所得300万円以上でなることができます。）

**●1頭の競走馬をみんなで！**

・1頭の競走馬を個人で所有するだけでなく、個人登録、法人登録のある馬主同士が2人～20人で共有する制度があり、少ない資金で参加することやリスクの軽減が図れます。

**●組合馬主制度を活用しよう！**

・親戚同士、会社の仲間、競走馬生産者と競馬ファンなどで組合契約を結んで馬主ライフを楽しみましょう。

地方競馬の馬主登録については地方競馬全国協会（03-3583-2142）までご連絡下さい。また、地方競馬情報サイト（http://www.keiba.go.jp/）でも詳しい情報をご覧になれます。

## 競走馬育成協会人事

和田新副会長就任
（平成22年度　第2回臨時総会）

平成22年度第2回臨時総会が、平成22年9月17日午後2時から、日本中央競馬会本部ビル7階大会議室において、開催されました。

吉田武徳副会長理事より9月30日をもって理事を辞任したい旨の届出があり、理事の補欠選任が行われ、和田隆一氏が選任されました。任期は平成23年2月19日までとなります。

この後行われた理事会で和田理事は副会長に選出されました。

和田隆一副会長理事略歴

氏　　名　和田　隆一（わだ　りゅういち）
生年月日　昭和25年7月2日
本 籍 地　栃木県
現 住 所　栃木県小山市
略　　歴　昭和49年　3月　帯広畜産大学獣医学科卒
昭和49年　4月　日本中央競馬会入会
昭和63年　2月　競走馬総合研究所病理研究室　研究役
平成17年　2月　競走馬総合研究所栃木支所長
平成18年　2月　競走馬総合研究所長
平成22年10月　（社）競走馬育成協会　副会長理事

和田隆一 副会長理事

いくせい　2010　48号

発　行　日　平成22年12月3日
発　　行　社団法人　競走馬育成協会
〒105−0003　東京都港区西新橋1−1−19
日本中央競馬会本部ビル5階
TEL. 03（3501）4771㈹　FAX. 03（3501）4772
E-mail kgj00522@nifty.ne.jp
編集責任者　和田隆一
制作・印刷　西谷印刷株式会社